

# 岐阜県中山間農業研究所ニュース

2016年度 第3号

今年も収穫の秋を迎え、私どもの試験研究もいよいよ成果検討会に向け、成績のとりまとめを意識した業務に励んでいきたいと思っております

さて、当研究所では平成26年より、これまでに開発した「独立袋栽培」の技術を応用・発展した夏秋トマトの革新的隔離栽培技術の開発に取り組んでおり、これまでに無い、総合的で画期的な低コスト栽培システムの開発を目指しています。本号ではこのトマト新システム、及び飛騨地域の特産食材であるエゴマに関する研究について紹介させていただきます。



©岐阜県

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56  
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1  
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116  
<http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

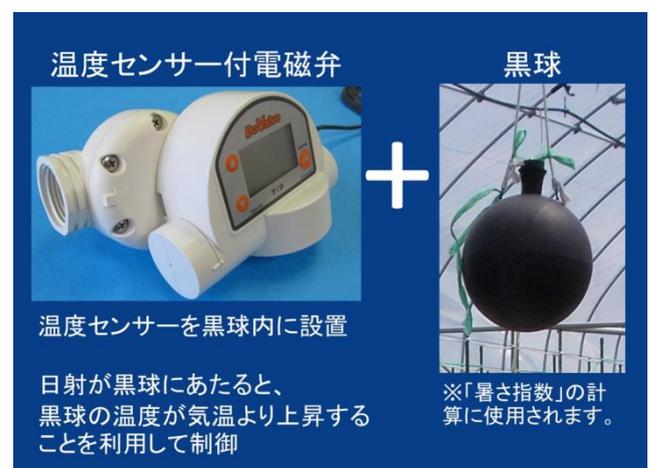
## 夏秋トマトの画期的多収栽培システムの開発

夏秋トマト産地では、長年にわたる連作や温暖化による夏季高温傾向等によって、土壤病害による被害が増加する傾向にあります。そのため、病害に汚染された土壌から隔離して低コストかつ安定的に栽培すること、またその特性をいかして多収を達成することを目標に研究を進めています。

本所（飛騨市古川町）では、飛騨地域の夏秋トマト産地で導入しやすいシステムを構築するため、

- セル苗(128穴)定植による省力化
- 給液装置の低コスト化
- 収量性を確保できる栽植密度の明確化等に取り組んでいます。

気象条件に応じた養水分の供給（雨の日には供給量を減少させる等）を実現するには、従来は高額な装置が必要とされていましたが、温度センサー付電磁弁と黒球を組み合わせることで低コスト化を目指しています。



温度センサー付き電磁弁及び黒球

【本所野菜担当 二村 章雄】

中津川支所（中津川市千旦林）では低標高地域の夏秋トマトに適する作型として、  
○4月下旬定植による栽培期間の拡大  
○密植（3,333株/10a）の実現  
○仕立て方法の改良  
に取り組んでいます。

27年度の試験では吊り下げ仕立ての密植で、目標とする20t/10aを超える結果を得られました。今年度は早期の現地導入に向けて、給液方法の基準作り、現地実証などに取り組んでいます。

【支所野菜担当 熊崎 晃】



低段果房の着果状況

## ● エゴマの収量増加に向けた栽培試験

飛騨地域のエゴマは、昔から伝統食材としてなじみが深く、五平餅のたれ等で身近な存在です。近年エゴマが健康に良い食材であることがTV等で取り上げられ、ブームとなっていますが、エゴマに関する研究はあまり進んでおらず、最適な栽培方法は判っていません。そこで、健康に良い成分を維持しつつ、収穫量を増加できる栽培方法等について研究を実施しています。

【本所花エゴマ担当 田中 良憲】



収量増加に向けたエゴマの試験状況

## ● 8月に試験研究中間検討会を開催しました。

毎年恒例となっております中間検討会を、8月9日（中津川支所）、8月25日（本所）の両日に盛況裏に開催することができました。いただいたご意見・ご質問等は、今後の研究活動に活かして参ります。出席をいただいた皆様方におかれましては、本当にありがとうございました。

